

ⅲ ⅱ ⅰ ⅱ ⅲ ⅳ ⅴ ⅵ ⅶ ⅷ ⅸ ⅹ ⅺ ⅻ ⅼ ⅽ ⅾ ⅿ

— 埼玉県障害者アートネットワーク
TAMAP±O実態調査・来年度に向けての
活動に関するアンケートより —

支援の現状と 活動の成果

今年度の活動の最後に、TAMAP±Oのメンバー
に向けて各事業所・施設の表現活動状況や支援体制、こ
の活動の成果などについてアンケートを行いました。

TAMAP±Oでは、展覧会実践や研修の節目に、
定例会で振り返りを行い、メンバーの気づき（成果・課
題）を共有するようにしています。また、定例会の議事
録や関連資料は後日、メールで一斉送信して各職場と
も情報共有をはかっています。

活動や定例会が、日頃の表現活動支援の悩みや課題
を語り合う場にもなっていますが、アンケートにより
改めて支援の現状や意識を把握して、今後の活動に活
かしていきたいと考えています。

< TAMAP±O参加施設の表現活動状況や支援体制について >

2018年2月実施：回答21施設

TAMAP±Oにはどんな施設が参加しているか

- ・発成年数 平均26年（5～80年）
- ・事業所数 平均6施設（1～14施設）
- ・総利用者数 平均145人（19～450人）
- ・職員数 平均107人（7～450人）

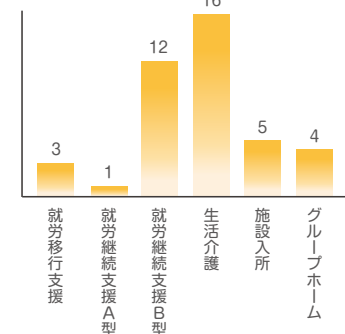
表現活動をどこでどのように行っているか

Q 表現活動を始めたのはいつから？

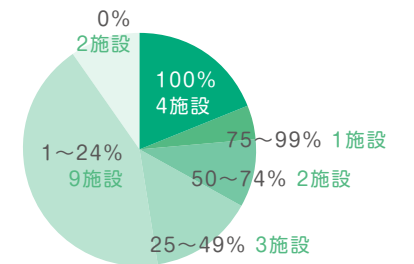
1997～2017年（平均2010年から） *2施設はまだ活動を行っていない。

Q 表現活動を行っている施設の種類は？

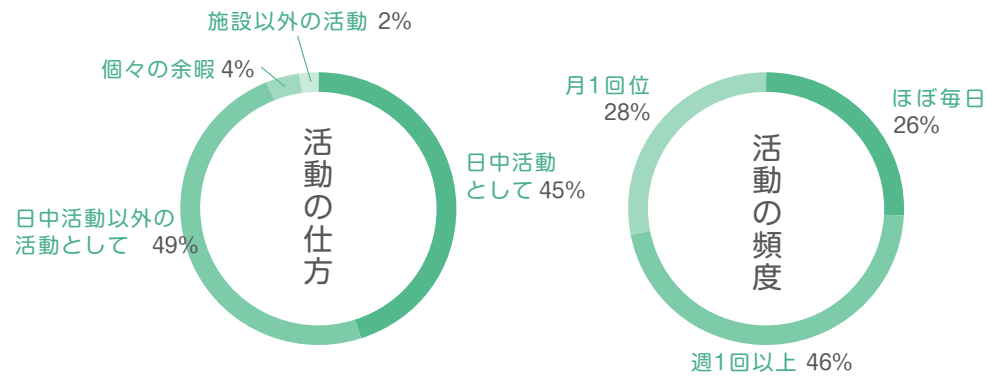
複数回答有



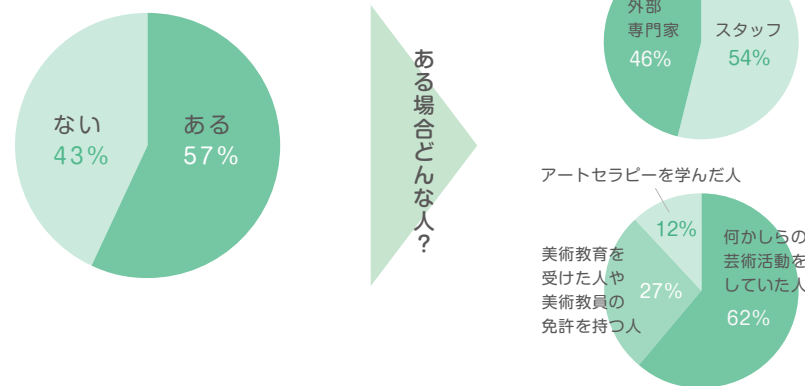
Q 表現活動をしている利用者は全利用者の何パーセント位？



Q 施設での表現活動の位置づけと頻度は？

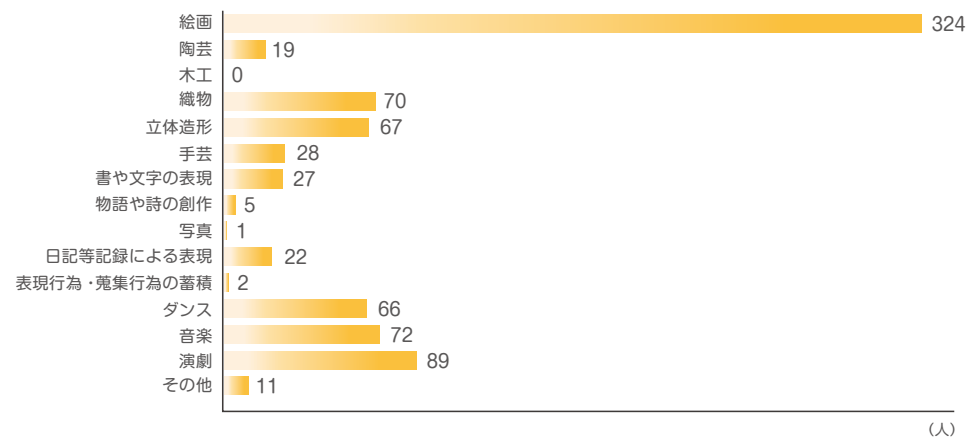


Q 芸術等の経験者や専門家のかかわりは？



どんな表現活動を何人位がしているのか

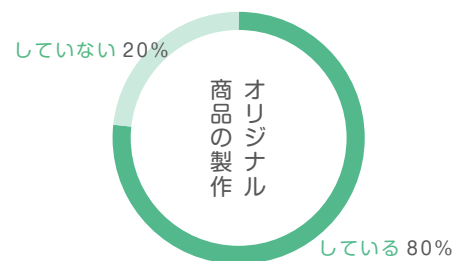
Q 表現活動の種類とその人数は？（集計：TAMAP±O全体の延べ人数803）



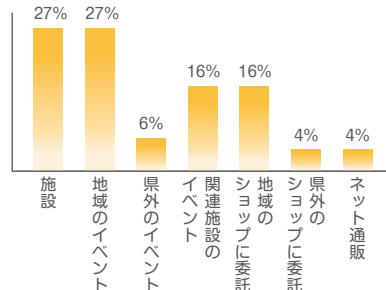
*グラフの数値は小数点以下四捨五入換算

商品化に取り組んでいるか

Q 施設独自の商品製作は？



Q 商品の販売は主にどこで？



Q 販路の開拓方法は？

- イベント出店でいろいろな人とのつながりをつくり人づてに
- イベント等で知り合った方から
- 地域のイベントへの参加や研修などで話をしておいてもらう
- 地域のつながりやイベントの参加、HPを通じての委託販売など
- 法人内事業所間の連携でつながりを広げている
- 技術を教わっている革職人の協力で販売先を拡大
- ビラ、ブログでの発信
- チラシ
- 口コミ
- まだ声を掛けられただけで出品する程度

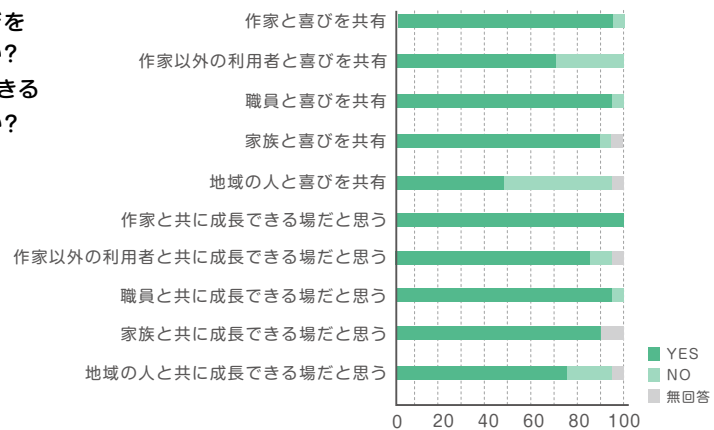
< TAMAP±0の活動について >

TAMAP±0の展覧会実践について

Q 施設の作家や表現の発信につながりましたか？

はい 19施設 / 21施設中 *2施設は表現活動をまだ行っていません。

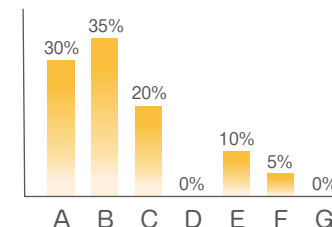
Q 展覧会により喜びを共有できましたか？ また、共に成長できる場だと思いますか？



表現活動をどう捉えているか 施設と個人との意識の違いはあるか

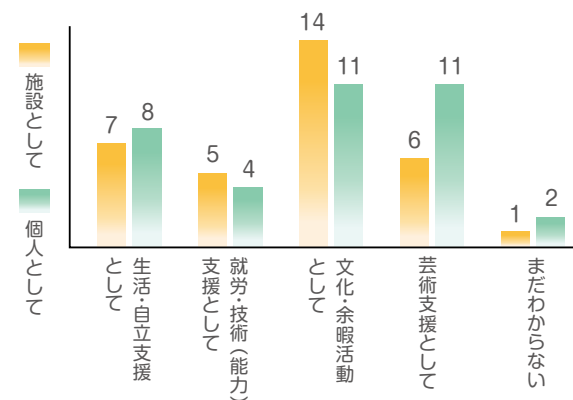
Q 表現活動の支援の体制は？

- A 組織全体で行っている 6
- B 全体として関心はあるが、活動は担当の部門・職員に任されている 7
- C 全体の関心は薄い、担当の部門・職員で行っている 4
- D 全体として関心はあるが、担当はなく、個々の職員が取り組んでいる 0
- E 全体の関心は薄く、担当もないが、個々の職員が取り組んでいる 2
- F 全体として関心はあるが、取り組みはまだ 1
- G 全体の関心も薄く、取り組みもこれから 0



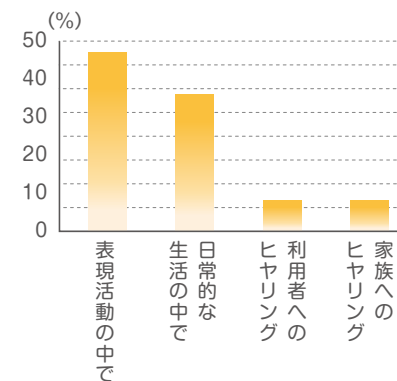
Q 施設として、担当者個人として、表現活動の支援をどのように捉えているか

複数回答有



表現をどのように発掘・発信しているか

Q 表現の把握方法は？



Q 県の表現活動状況調査に参加したのはいつから？

2009～2017年(平均2014年から)

Q 施設で展覧会を開いたことは？

ある 11施設 / 21施設中

Q 一般の展覧会に出展したことは？

ある 6施設 / 21施設中

アートセンター集と活動のこれから

課題を踏まえて、今後の展望

事業の最後に協力委員会を開き、今年度の活動について振り返り、課題や今後の展望について話し合いました。

相談支援

創作環境に関する相談には、表現活動を20年以上行っている当法人の経験を活かし、創作環境を積極的に公開して対応してきました。本活動の成果もあり、昨年以上に県内外から相談が増えてきたことから、今後も様々な相談が増える予想されます。長年、当法人が培ってきた地域との連携や組織内の知恵を活かして、引き続き丁寧に対応していきたいと思っています。

個別の課題については、多くが地域の教育、支援学校や福祉施設のあり方など、社会全体の課題につながります。今後は、定期的に事例検討会を行うなど地域のニーズ

(課題)を浮き彫りにして、ネットワーク力を活かし、より広く地域全体の課題として共有していきたいと考えています。

また、様々な相談に対応できるよう、アトスペースやオープンアトリエ、ダンスや音楽の活動場所など地域の社会資源の情報収集・把握にも努めていきます。

支援者の人材育成

施設間のつながりを基盤に県行政職員や美術専門家等と協働で開く展覧会づくり等を実践しながら、より一人ひとりが各職場の課題に合わせた支援力アップを目指すような、段階的なプログラムづくりを

検討していきたいと考えています。

権利保護や商品化の研修についても、「何のためか」といったこの活動が大切にしている基本を広めながら、より個別のニーズにも応えられるような機会をつくりたいと考えています。

埼玉県障害者アート ネットワークTAMAP+O

ネットワークでは、展覧会等の企画運営を軸にしながらも毎月の定例会を中心に、福祉施設職員にとつてすべての活動が学び合いにつながるような展開をしています。施設独自の取り組みや地域への活動の普及に意欲的な施設も多く、「みんなで埼玉の表現活動を盛り上げて行こう」という連帯感のあるネットワークです。年々、横のつながりも広がっています。そのネットワークの長所を大切に、今後は他施設と展覧会を開いたり、地域ごとに研修会を企画したりといった支部ごとの活動も増やして、それを全体でバックアップしていきたいと考えています。

展覧会づくり

これまで同様、「埼玉県障害者アート企画展」を中心に、様々な人と協力しながら開催を継続していきます。多様な意見をくみながら、埼玉独自の展覧会づくりや展覧会の魅力をどう発展させるか、みんなできえ取り組んでいきたいと思います。

ダンス公演

美術だけでなく「新たな可能性の発掘」として、今後は県や他団体とも協働で継続していきたいと考えています。

調査・発掘、評価・発信

今年度、埼玉県と連携して「表現活動状況調査」を行いデータベース化できたことは、これまでの県の取り組みを発展させ、障害者芸術文化活動支援センターとしても一歩前進する、大きな成果となりました。

調査票や選考方法などの課題を一つひとつ解決しながら、福祉施設職員と美術専門

家が共に行う「作品選考会」など埼玉独自の手法をより汎用性のある「埼玉方式」として発展させることで、さらに障害のある人たちの表現やその活動の普及に努めていきたいと考えています。

県内においては、調査票の提出が1件もない市町村や回答が少ない特別支援学校に向けての情報発信にも力を入れたいと思っています。

今後の展望

この埼玉の障害者芸術文化活動普及支援事業では、「福祉の現場から、障害のある人たちの表現の魅力を発信し、そのアートのパワーで、よりよい未来をつくっていきましょう」といった思いを一つに、様々な人たちが力を合わせて活動しています。

2018年度も、9回目を迎える「埼玉県障害者アート企画展」を軸に、みんなで知恵を出し合い、一つひとつ課題を解決しながら活動していきたいと考えています。

表現活動の意義をどう発信するのか、その先のビジョンをどう描くのか——検討を

重ね、活動を計画していきます。

埼玉に生まれる多様な表現と共に、みんなで社会に「問い」を発信し続けながら、より多くの人と表現から得る感動や学び、支援の喜びや活動の楽しさを共有していきたいと思えます。そのためには、みなさまの力がが必要です。

今後とも活動へのご協力ご参加をよろしく願っています。



みぬま福祉会「工房集」の 理念と取り組み

美術が得意な施設ではありません。
「何もできない」と思われた仲間たちが
自らの表現を仕事にしている施設です。

理念にもとづく表現活動

「工房集」は、社会福祉法人みぬま福祉会の施設であると共に、22施設・事業全体で取り組む表現活動のプロジェクト名です。

施設としての「川口太陽の家・工房集」は、2002年に開設。アトリエ・ギャラリー、ショップ、カフェを兼ね備えたプロジェクトの中心施設です。プロジェクト「工房集」では、普段からアトリエを公開したり一人ひとりの作品集を作ったり、展覧会やグッズ展、ワークショップなどを開催したりと、表現活動を社会につなげる様々な取り組みをしています。それらはすべて、表現活動以外の支援にも共通する当法人の理念にもとづいています。

仕事とは、支援とは

みぬま福祉会では、「どんなに障害が重くとも働ける。働くことは権利である」という理念のもと、仲間一人ひとりの仕事を模索する中から働くことは、「お金を稼ぐこと」に加え「社会とつながること」「仲間の豊かな発達につながること」の3つに定義しています。

障害のある仲間の「できる仕事を探す」のではなく、一人ひとりの異なる主体的な行動や表現に寄り添い一緒に試行錯誤しながら、「好きなこと、得意なこと、その人にしかできないことを仕事につなげる支援」をしています。

そして、美術が得意な人のアートや作業の合間に行う余暇活動の支援とは異なる日々の支援の先に表現活動がある、つまりは、誰もが表現の可能性を持っていると考えています。

「ともに働き、ともに生活し、ともに地域をつくる仲間。私たちは、施設利用者を「仲間」と呼んでいます。」

でも受け入れる」を理念に発足しました。どんな局面でも「困難や例外的な状況にある人を切り捨てない」ことを大切にしています。

表現活動は、1994年頃、既存の仕事に合わなかった二人の仲間をきっかけに、障害の重い仲間たちの仕事づくりを模索し続けたことから始まりました。今ではアトリエが10ヶ所あり、120人以上の仲間が日々、表現活動をしています。

その表現は、千差万別です。絵画、織物、ステンドグラス、木工、写真、書、詩、漫画、紙粘土…と多岐にわたる種類の中でも一人ひとりの表現は異なり、さらに日常的な行動による積み重ねや既存のジャンルに当てはまらない「これ何!？」と思われる表現もあつて実に多彩です。美術が得意な人を集めたのでは

なく、むしろその逆で、「何もできない」と思われた人たちの表現が、私たちの心を揺さぶり、工房集の表現活動を導いてきました。表現によって本人も仲間たちも私たちが家族も地域も変化し、さらに表現を社会に広げることで、人々の意識を変えたり固定観念を覆したりと、さらなる変化をもたらしています。

現在では、年に約30回もの出展依頼があり、国内にとどまらず、海外のギャラリーと独占契約を結んだり、ニューヨークやフランスのギャラリーで高く評価されたりする作家もいて、個々の作品がアートの世界からも注目され始めています。

また、企業の広告、ファッションブランドとのコラボレーション商品など、表現をデザインに二次使用される機会も増えています。

このような活動を長年、現場で積み上げてきたことを評価していただき、「埼玉県障害者アートフェスティバル」では、実行委員として、また、「埼玉県障害者アート企画展」では、ワークショップのリーダーとして、他の福祉施設や美術専門家などの関係者と連携して、県内の表現活動支援にも関わってきました。

【工房集】

日常的に場を開き、障害のある仲間、職員、家族、地域の福祉関係者、住民、ボランティア、さらに建築家、アーティストなど様々な人を巻き込んで、表現活動を社会へ広めています。



みぬま福祉会はその運営・事業を支える後援会と共に歩んでいます。集カフェは後援会活動の一つです。作品展の余韻を楽しむための集カフェは、天井が高くやわらかな光が入る明るいスペース。人気の手作りケーキとこだわりの焙煎コーヒーでおもてなしをしています。一人でお茶をしながら作品をゆっくり眺める方や、作品を通して、ご家族、ご友人と交流されている方など、人と人をつなげる空間になっています。

図は雑誌『庭 NIWA』
2017年1月号より転載 (作図:長崎剛志)

みぬま福祉会の理念

- 1 県南各地のどんな障害をもっている、希望すればいつでも入れる社会福祉施設づくりをめざします。
- 2 入所者は障害の種類や程度、発達段階等が充分考慮され、一人一人のニーズに応じた生活、労働、教育、医療が受けられ、ともに生きる「仲間」として、その自主性が尊重され、人権が最大限に守られるような社会福祉施設づくりをめざします。
- 3 社会福祉施設は、その地域の中に存在し、その地域とともによりよい社会づくりをめざし、入所者は地域の人々と助け合いながら、ともに生きることをめざします。

工房集 プロジェクト

社会福祉法人みぬま福祉会が表現活動を行っているアトリエの一覧です。



アートセンター集 報告書 2017-18
2018年3月30日発行

企画・編集・発行
社会福祉法人みぬま福祉会

アートセンター集
〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1445(工房集内)
TEL 048-290-7355
FAX 048-290-7356

アートセンター集HP <http://artcenter-syu.com/>
工房集HP <http://kobo-syu.com/>
みぬま福祉会HP <http://minuma-hukushi.com/>

構成・編集 武居智子

編集協力 杉千種(consult) TAMAP±〇

写真 荒木隆男 今井紀彰 鈴木広一郎 武居智子 工房集

アートディレクション 水川史生(en design studio)

デザイン 藤沼重人(Type+design room) 工房集

助成 厚生労働省「平成29年度障害者芸術文化活動普及支援事業」

議事録やアンケートなど様々な記録をもとに編集しました。
事業にご参加ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

© 社会福祉法人みぬま福祉会
無断転載厳禁